

環境学習プログラム 区分4 ごみ問題を考える

プログラム名	ごみを減らすにはどうしたらいいか考えよう。
学習のねらい	1週間の日常生活でごみを調べ、どうすればごみを減らすことができるのか考える。
主な対象者	小学校高学年以上の夏休み・冬休みの宿題用 あるいは主婦対象も可
準備するもの	薄いポリ袋(小)、宇部市指定のごみ袋、透明ポリ袋(大)、記録ノート 台ばかり(2kg程度)、ルカメラ
学習のながれ	調査する1週間をきめ、家族の協力をもとめる。 この期間、調理の準備や後片付けを手伝う。ごみの分別を手伝う。 通常のごみの出し方と違う点は、もやせるごみから、たべものごみと、その他の紙やよごれたプラスチックなどに分けることです。 毎日、分類したごみ(たべものごみと、それ以外のもやせるごみ)の1日分の重さを台ばかりではかり、記録する。写真もとっておきましょう。 1週間の、もやせないごみ、カン、びん、ペットボトル、その他プラスチック容器包装、などの重さを量る。写真もとっておきます。 これらごみの量を1日分の量にして、家族1人あたり1日に何グラムのごみを出しているかを計算します。
結果について考える	じぶんの家の1人1日当たりのごみの量を全国の平均的な値と比べて多いか少ないか比べてみよう。そして、どのようにしたらごみが減らすことができるのかを考えてみよう。とくに、燃やせるごみに含まれる水の量、食べ残しの量などに注意して、ごみの量が多くなる理由について考えるといいですね。クラスの何人かがやってみる場合は、結果を持ちよって、話し合うのもいいと思います。
興味がわいたら	同じ献立で、1食分、注意深く調理し、あとかたづけをするか、あるいはぞんざいにするかで、食べ物ごみや、燃やせるごみにまわるごみの量がどのように違うのか、調べてはどうでしょうか。
所要時間	期間は1週間、1日1時間程度、合計7時間、結果の整理1日 程度。
学習の会場	各児童、生徒の家庭
プログラムをやるときに気をつけなければならぬ点	家の方によく相談し、清潔に気をつけ、びんを割ったりしてけがをしないようにして下さい。
参考となる情報	インターネットで「日本の廃棄物処理」 http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/h21/data/disposal.pdf 等を参考にしましょう。環境情報リンク集も参考にして下さい。
プログラム提供者	浮田正夫 0836-33-0470 ukita51@pastel.ocn.ne.jp
備考	プログラム提供者に連絡先のあるものは相談に乗っていただけますが、まず、まちなか環境学習館に連絡して下さい。